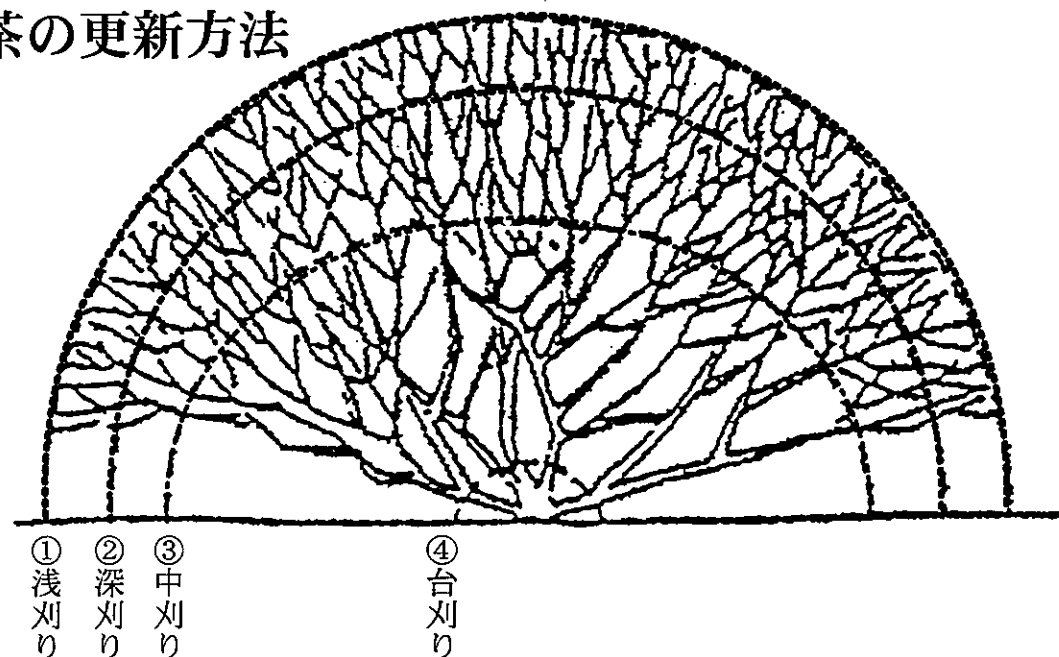


茶栽培歴

◎お茶の更新方法



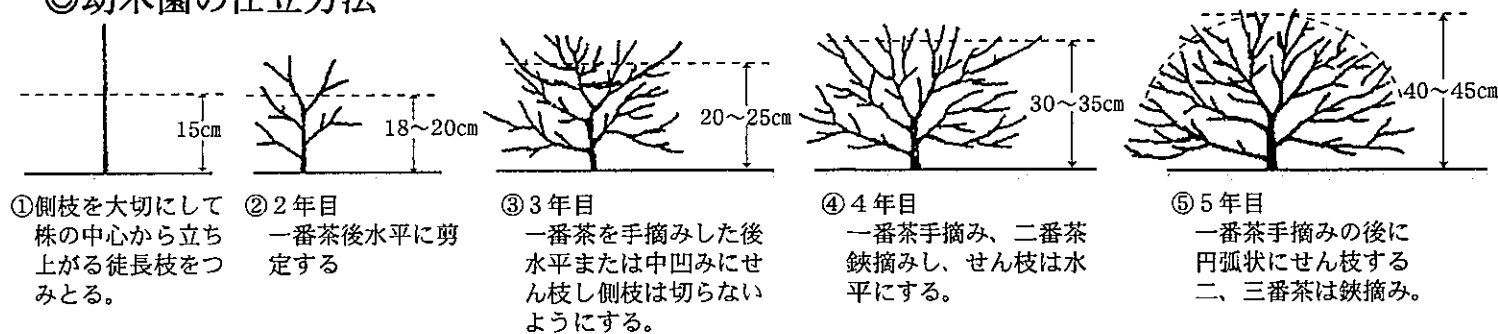
種類	剪枝位置	更新効果
①浅刈り	摘採面より 3~4cm	2~3年
②深刈り	摘採面より 15~20cm	5~6年
③中刈り	地上より 30~50cm	10年程度
④台刈り	地上より 15cm以内	15~20年

参考 幼木園・苗木の定植本数

10a当たり苗木数	
●1.5m×30cm 単条	約2,200本
●1.5m×45cm 単条	約1,500本
●1.8m×30cm 単条	約1,800本
●1.8m×45cm 複条	約2,500本

- ・更新の時期は、一番茶摘採後に直ちに行う。
- ・更新後は、萌芽してくる新芽に病気や害虫が発生しやすいので、早期防除を徹底する。

◎幼木園の仕立方法



施肥時期	施肥例	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基肥	油かす (5-3-1) 80kg	15	15	8
	あわみどり (12-7-9) 80			
	ようりん (0-20-0) 40			
春肥	あわみどり (12-7-9) 140	16	10	12
芽出肥	硫安 (21-0-0) 40	8		
夏肥	硫安 (21-0-0) 50	10		12
	塩化カリ (0-0-60) 20			
合計		49	25	32

月 / 旬	成木園の管理		幼木園の管理	病害虫関係
				防除時期 対象病害虫
3月	上	春肥の施用を行い、中耕する。	苗木の定植 株元に山草、ワラ等敷き、乾燥を防止する。	一番茶萌芽前 チャトゲコナジラミ (マシン油乳剤) 一番茶萌芽期 カンザワハダニ (越冬ダニの多い場合)
	中	化粧ならし、または春整枝を行う。		
	下	凍霜害の防止(ネット等の使用)		
4月	上	芽出肥の施用、除草、浅耕を行う。 防霜対策(防霜ファン、ネット)	仕立…定植後の徒長枝をせん枝し、分枝数の増加。株張りをよくし、早期成園化に努める。 施肥を行う。	一番茶摘採後 チャノミドリヒメ ヨコバイ カンザワハダニ
	下	一番茶の摘採 手摘み…みる芽摘み		
5月	上	機械摘み…開葉4~5枚程度のものを (古葉が混入しないように) 一枚残して摘む 夏肥の施用(一番茶のお礼肥) 更新、整枝を行う。		炭そ病 網もち病
	中			
	下			
6月	上	除草と中耕	挿し木…新鞘の硬化した穂木を3節2葉で挿す。 干害防止…敷きワラを十分行う。	クワシロカイガラムシ (発生が多い園)
	下	二番茶の摘採(若芽摘み) 整枝(芽揃いをよくし芽数を増やす) 二番茶を摘採しない園も整枝を行う。		
7月	上	夏肥の施用。二番茶摘採後直後。 除草を兼ねて軽く肥料を土に混ぜる。 更新後の再整枝	施肥を行う。	二番茶摘採後 ハマキムシ類 チャノミドリヒメ ヨコバイ 炭そ病 網もち病 チャトゲコナジラミ (発生が多い園)
	中	干害防止…敷きワラ、敷き草を十分に行う。かん水を行う。(干害の年は特にかん水を行う)		
8月	中	土壌改良…苦土石灰を10a当り100~150kg施す。 有機物の施用	施肥を行う。	基礎施用後 コカクモンハマキ チャノホソガ 炭そ病 褐色円星病 もち病 秋整枝後 カンザワハダニ クワシロカイガラムシ
9月	上	基肥の施用。中耕し、土とよく混ぜる。 (2~3年に1回は深耕する。)		
10月	上	秋整枝(株ならし) 敷草等10a当り1,000kg以上の山草または稲ワラを株元に敷きこむ。		
11月		防寒、防風対策等		